

# 〈東文研・ASNET共催セミナー〉

## 最初期インド仏教僧院における頭陀行（苦行） の人類学を発展させるために規範的な文献の伝 承から物語の諸要素を利用する

*Utilizing Narrative Elements from a Normative Textual  
Tradition to Develop an Anthropology of the Ascetic  
Practice in the Earliest Indian Buddhist Monastery*



規範的な文献から歴史的な情報を  
抜き出す研究方法は、インド仏教の研  
究者たちにとって興味深い主題として、  
繰り返し、繰り返し論じられてきた。

しかしながら、インド仏教経典は情報  
の時代や場所を特定することが難しい  
ために、多くの研究者は、これら仏典に  
見出される情報の多くを研究対象から

外さざるをえなかった。本発表では、人類学的な観点から、初期仏教サンガの社会史的  
研究を進めるために、インド仏典に説かれる出家者の生活の一断面（苦行に関する物語）  
に焦点を当てて、新たな方法論を発表する。

- ◆ 日 時： 2016年7月21日（木）17:00-18:00
- ◆ 報告者： ウィットコスキ・ニコラス氏（東洋文化研究所・訪問研究員）
- ◆ コメント： 名和克郎氏（東京大学 東洋文化研究所 教授）
- ◆ 会 場： 東京大学 東洋文化研究所 第一会議室（3階）

※ 報告は英語で行われます。



東京大学  
日本・アジアに関する教育研究ネットワーク  
Network for Education and Research on Asia

